

日本・韓国伝統建築空間のイメージ評定尺度抽出

日本・韓国伝統建築空間のイメージ特性 (その1)

SAMPLING THE RATING SCALES ON THE IMAGE OF THE APPEARANCE
FOR JAPANESE AND KOREAN TRADITIONAL ARCHITECTURESA study on the image of the appearance for Japanese and Korean
traditional architectures Part 1

岡島達雄*, 金 東永**, 麓 和義***, 内藤 昌****

Tatsuo OKAJIMA, Dongyoung KIM, Kazuyoshi FUMOTO and Akira NAITO

This research defines the image of the appearance for Japanese and Korean traditional architectures. In part 1, representative rating scales are sampled by Japanese and Korean subjects' cognitive structure. The subjects had similar pattern of cognitive structure to Chinese rating scales: gorgeousness-modesty, strictness-looseness, hardness-softness, order-disorder, between Japanese and Korean. Consequently, those four can be used for representative rating scales.

Keywords: Japanese traditional architecture, Korean traditional architecture, image, rating scales

日本伝統建築, 韓国伝統建築, イメージ, 評定尺度

1. 序

人間は必要によって新しい空間をつくり出すと同時に、またそのつくり出される空間の色々な面からその空間を理解し、関係を形成していく。A. ラポポートは、「住居を建てることは文化現象なのであるから、住居の形態と構造は、それが属する文化環境におおいに影響される。」¹⁾と指摘している。結局、地域・時代などによって空間の構成と構造の表現およびイメージは違っていると考えられる。そのような特徴は特に、地域土着性の強い伝統建築によく表れていると考えられる。

そこで本研究は、古来から中国文化すなわち漢字文化圏の中で歴史・文化など幅広い分野において密接な関係をもって成長し、現在は各々の独自の文化を創出している日本と韓国両国の伝統建築のファサードに表れている意匠的イメージ特性を、日本と韓国の被験者による心理実験を通して、被験者のイメージ認知構造から考察する。そのためには、共通の評定尺度が必要になってくる。そこで、まず本報では日本と韓国の被験者グループが、対

象物に対して同様のイメージ認知構造をもつ代表評定尺度を抽出することを直接の目的とする。

2. 既往の研究

日本の伝統建築空間の研究を認知的な次元で行った奥長²⁾は、S.D.法によって空間のイメージを「華寂性」・「剛柔性」・「厳笑性」の3因子で捉えられる可能性を見出した。船越³⁻⁵⁾は、街路空間、参道空間、書院造・茶室、ファサードなどの空間のイメージと空間を構成する物的要素との関係の研究を行っている。物的要素を定性化・定量化する技術上の問題から、変化に富んだ形態や色調、テクスチャーをもつ建築空間を扱う研究は、まだ充分行われていない。筆者ら⁶⁻⁹⁾は、平安時代から江戸時代にわたる10棟の日本の伝統建築を対象として、空間特性を空間イメージと構成部材及び要素との知覚的特性の関連で明らかにした。また8ヶ所の日本伝統的街並の実空間とCRT画像のイメージ調査を行い

* 名古屋工業大学社会開発工学科 教授・工博

** 名古屋工業大学社会開発工学科 大学院生・工修

*** 名古屋工業大学社会開発工学科 助教授・工博

**** 愛知産業大学建築学科 教授・工博

Prof., Dept. of Architecture, Nagoya Inst. of Technology, Dr. Eng.

Graduate Student, Dept. of Architecture, Nagoya Inst. of Technology, M. Eng.

Assoc. Prof., Dept. of Architecture, Nagoya Inst. of Technology, Dr. Eng.

Prof., Dept. of Architecture, Aichi Sangyo Univ., Dr. Eng.

その景観構成要素を抽出・分類し、空間のイメージに対する構成要素の影響も明らかにしている¹⁰⁻¹²⁾。以上の研究の対象はすべて日本伝統建築であったが、異国の伝統建築空間とのイメージの比較研究を行うことにより、各国の伝統建築空間の特徴が一層客観的に捉えられると考えられる。

3. 研究方法及び実験の概要

まず、直接日・韓国国の被験者による実空間での実験が困難であるので、スライド写真を代用することの妥当性を確かめるために心理実験（以下実験Ⅰとする）を行う。次に、日本と韓国の代表的な伝統建築の中から対象物を選び、そのファサードのイメージと、そのイメージ想起に強く影響を与えた部分に関して、日本と韓国の被験者に心理実験（以下実験Ⅱとする）を行う。その実験結果を用いて、異なる国の被験者が実験を行うため、両国の被験者のイメージ認知構造を考察して両被験者グループに同様の認知構造をもつ共通の代表的な評定尺度を抽出する。そして次報では、それから抽出される代表評定尺度による対象物のイメージとそのイメージ想起に強く影響を与える部位及び要素を明らかにし、それらの関連の考察から対象とする日本・韓国伝統建築のファサードに表れている意匠のイメージ特性に関して論ずることとする。

4. 実空間とスライド空間との対応考察

4. 1 実験方法

実空間をスライド写真に置き換えるほかは、日本伝統建築における空間のイメージ分析に関する前回⁶⁾の実験と全く同じ条件で行った。すなわち、同じ対象物（図-1、表-1）のスライド写真及び同じ評定尺度（表-3）を用いて¹¹⁾、S.D.法の7段階評定を行った（実験Ⅰ）。そしてこのスライド写真による実験Ⅰの結果と実空間による前回の実験の結果との相関関係を調べた。なお、被験者は前回の実験と同じく建築学系学生としたが、記憶から起こるイメージの重複を避けるため、対象建築の実空間を体験していない者とした。

被験者一名古屋工業大学 建築学系学部3、4年生及び大学院生22名

実験場所一名古屋工業大学付属図書館3階視聴覚室

実験日ー平成3年10月16日～24日（20日を除く）

4. 2 対応関係考察

前回と実験Ⅰの結果から各対象物ごとの50形容語対の評定平均値を代表値として相関分析を行い、実空間とス

表-3 実験Ⅰの評定尺度

1	くどいーあっさりした	26	うるさいー静かな
2	平靜なー刺激的な	27	広いー狭い
3	荘重なー軽快な	28	あまいーからい
4	おとなしいーあらあらしい	29	弱いー強い
5	純粋なー不純な	30	新しいー古い
6	あらいーこまかい	31	長いー短い
7	優雅なー粗野な	32	陰気なー陽気な
8	流動的なー固定的な	33	あたたかいーつめたい
9	高いー低い	34	男性的なー女性的な
10	角ばったー丸みがあった	35	薄いー濃い
11	閉鎖的なー開放的な	36	軽いー重い
12	なだらかなーはげしい	37	はげはげしいーしぶい
13	派手なー地味な	38	こわいーやさしい
14	質素なー贅沢な	39	やわらかいーかたい
15	鋭いー鈍い	40	太いー細い
16	おだやかなーはげしい	41	たよらないーたのもしい
17	曲線的なー直線的な	42	急なーゆるやかな
18	白いー黒い	43	明るいー暗い
19	粗雑なー精密な	44	複雑なー単純な
20	いなかやさいー都会的な	45	連続的なー断続的な
21	動的なー静的な	46	はやいーおそい
22	なめらかなーあらい	47	簡素なー豪華な
23	嬉しいー悲しい	48	上品なー下品な
24	大きいー小さい	49	たくましいーかよわい
25	近いー遠い	50	落ち着いたーそわついた

表-4 実空間とスライド空間との相関関係

対象物	相関係数	有意水準
金地院方丈	0.81	0.0001
平等院鳳凰堂	0.28	0.0551
金地院八窓席	0.88	0.0001
相国寺法堂	0.86	0.0001
角屋	0.74	0.0001
日吉大社東照宮	0.85	0.0001
園城寺金堂	0.72	0.0001
光浄院客殿	0.72	0.0001
浄土寺浄土堂	0.54	0.0001
姫路城天守	0.86	0.0001

ライド写真とのイメージの対応関係を調べた。平等院鳳凰堂では、弱い相関関係を示したが、実空間とスライド写真との状況を比較してみた結果、スライド写真と実空間の視点、視角がともに異なっていたことが判明した。浄土寺浄土堂では、視点のみが違っていた。以上の2つの対象物以外では、相関係数が0.70以上（有意水準：0.0001）の高い相関関係が得られた。これらは実空間とスライド写真ともに同じ視点及び視角であったことが確認された。これより実空間と同じ視点及び視角のスライド写真で得られる対象物のイメージは、実空間でのイメージとほとんど同じであると考えられ、スライド写真を実空間の代替として用いることができると考えられる（表-4）。

5. 代表評定尺度の抽出

5. 1 抽出方法

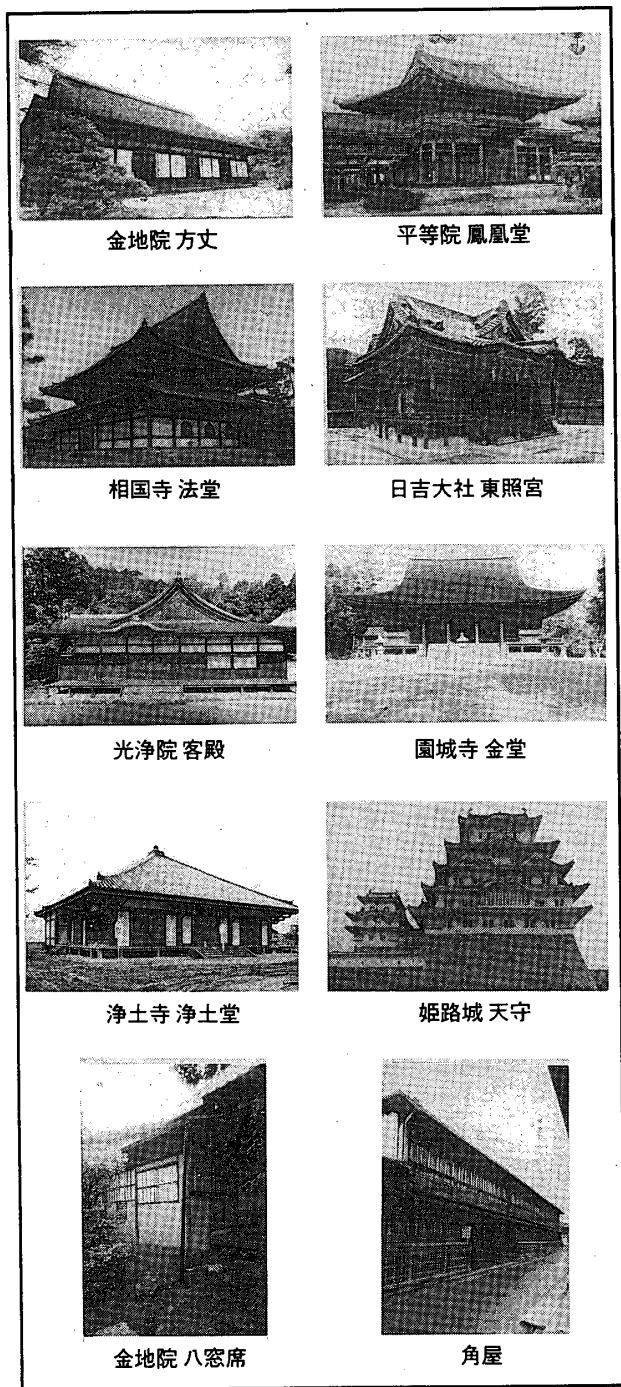


図-1 日本の対象建築物

表-1 日本の対象建築物

時代 建築	平安 (8~12世紀)	鎌倉 (12~14世紀)	桃山 (16~17世紀)	江戸 (17~19世紀)
寺院建築	平等院 鳳凰堂	浄土寺 浄土堂	園城寺 金堂 相国寺 法堂	
神社建築				日吉大社 東照宮
住宅建築			光浄院 客殿 金地院 方丈	角屋
茶室建築				金地院 八窓席
城郭建築			姫路城 天守	

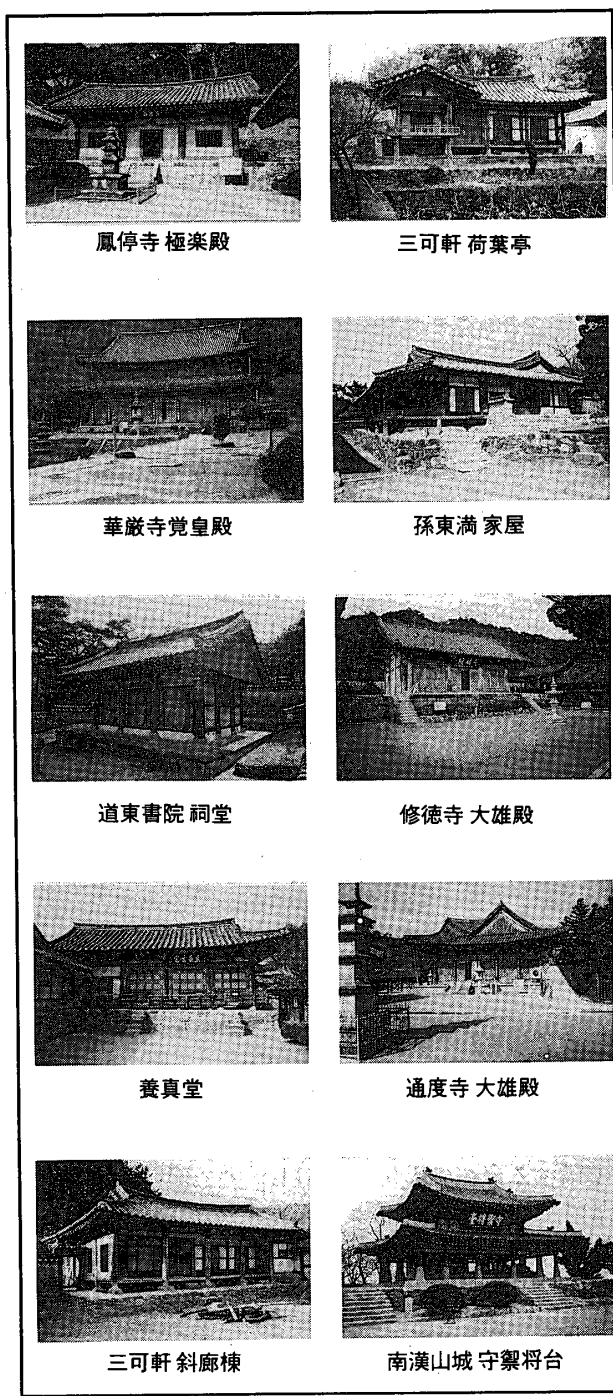


図-2 韓国の対象建築物

表-2 韓国の対象建築物

時代 建築	高麗 (10~12世紀)	高麗 (13~14世紀)	朝鮮 (14~16世紀)	朝鮮 (17~19世紀)
寺院建築	鳳停寺 極楽殿	修德寺 大雄殿		華嚴寺 覺皇殿 通度寺 大雄殿
祠堂建築				道東書院 祠堂
住宅建築			孫東滿 家屋	養真堂 三可軒 斜廊棟
別堂建築				三可軒 荷葉亭
城郭建築				南漢山城 守禦將台

II・韓両対象物のファサードのスライド写真（各対象物ごとに1場面、計20場面）に対して、日・韓の被験者に28形容語対（表-5）と4漢字対の〈華-寂〉・〈厳-笑〉・〈剛-柔〉・〈整-雑^{註2)}〉を用いて、S.D.法による7段階評定を行う。2つの結果で一連の分析を行い両国被験者グループの対象物に対するイメージの認知構造を調べて、対象物に対する同様のイメージの認知構造をもっていると判断される代表評定尺度を抽出する。

5. 1. 1 評定対象物

日本と韓国の伝統建築の代表的なものの中から、時代・様式及び保存状態などを考慮して各々10棟、計20棟を対象物として採用した。日本の対象物は、日本建築史上の時代及び様式を考慮し、空間のイメージに偏りがないように選んだ前回の対象物を用いた（表-1、図-1）。韓国の伝統建築は、現在残っているもののほとんどが高麗・朝鮮時代のものであるので、その時代のもので中心となった。一方、両国の対象物の中で同じ性格の建築がない場合は、可能な限り建築の性格が近似するものを選定した。すなわち日本の神社建築・茶室建築に、相当するものとしてそれぞれ韓国の儒教建築の中の書院^{註3)}の祠堂建築^{註4)}と住宅の別堂建築^{註5)}を当てた（表-2、図-2）。実験では各対象物のファサードのスライド写真を1場面ずつ、計20場面用いた。

5. 1. 2 評定尺度

実験IIでの評定尺度は、S.D.法による建築外部空間評価に関する既往の研究^{註6)}及び日・韓両国の伝統建築美に関する文献^{註7)}を参考にし、日本と韓国の被験者を対象として行うため両国で意味の差のほとんどない漢字まじりの言葉を中心として選ぶことにした。また、両国の代表的な伝統建築を対象として実験を行うため、‘よい-わるい’、‘美しい-醜い’などの評価を表す極端な意味尺度は避けることにした。なお、実験Iの被験者から、評定尺度の数を減らして実験を行うと被験者からのより忠実な回答が期待できるとの意見が出たので、実験IIでは評定尺度の意味の重複がない範囲内で、可能な限りその数を減らした。以上の基準で、既往の研究から25の形容語対を選定し、また日・韓伝統建築の意匠の物理的な特性を表すとき使われる言葉の中で有効と考えられる‘色彩感のある-色彩感のない’、‘対称的な-非対称的な’、‘装飾的な-非装飾的な’の3対を加えて、最終的に28の形容語対を採用した。さらに、代表評定尺度としての可能性を調べるために、奥長^{註2)}、岡島ら^{註6)・10)}の研究から抽出された4漢字対〈華-寂〉・〈厳-笑〉・〈剛-柔〉・〈整-雑〉も用いた。

5. 1. 3 実験日程及び被験者構成

被験者は主に日本・韓国の大学生を中心として、日本と韓国で1991、1992の2年にわたって、計4回の実験（日本伝統建築-日本人・韓国人、韓国伝統建築-日本人・韓国人）を行った。一方、韓国人の実験は、韓国語の実験用紙で実験を行った。当然、韓国の被験者には韓国語で答えさせた。韓国語の翻訳においては、評定尺度及び実験内容の意味差を可能な限り無くするため数次にわたって翻訳、検討し、最終的には専門家による検討のうえ、韓国語の実験用紙を作成した。また4漢字対に対しては単語の意味の説明を付した実験用紙で行った。

1991年；被験者一名古屋工業大学学部生、大学院生22名（日）、在名古屋韓国大学院留学生9名（韓）
実験場所一名古屋工業大学 付属図書館 3階 視聴覚室
実験日-10月16日～24日（20日を除く）

1992年；被験者一名古屋工業大学 建築学系 学部生、大学院生34名（日）、韓国大邱 慶北大学 建築科学部生33名（韓）
実験場所一名古屋工業大学 大学会館 3階 小会議室（日）、韓国大邱慶北大学工大2号館1階ゼミ室（韓）
実験日-6月3日～5日（日）、3月27日（韓）

5. 2 分析及び考察

対象物に対する28形容語対と4漢字対による評定結果からまず、28形容語対の評定値を用いて因子分析を行う。因子分析で抽出された因子と4漢字対との相関分析を行い、4漢字対の28形容語対に対する代表性を確かめる。次に抽出された因子と4漢字対との回帰分析を行い、両国被験者の4漢字対の認知構造に対する抽出された因子の影響度を調べる。最後に両国の被験者の4漢字対の評定値による対象物のクラスター分析を行い、以上の結果を検証する。

5. 2. 1 28形容語対の因子分析

4回の実験（日本伝統建築-日本人・韓国人、韓国伝統建築-日本人・韓国人）での28形容語対の評定値をデータとして、主因子解法によるバリマックス回転の因子分析を行った。その結果、固有値が1.0以上の3因子を得ることができた。各因子内の因子負荷量の高い形容語対は、第1因子では、‘豪華な-質素な’、‘装飾的な-非装飾的な’、‘複雑な-単純な’などが、第2因子では、‘かたい-やわらかい’、‘親しい-よそよそしい’、‘暖かい-冷たい’などが、第3因子では、‘整

然とした-雑然とした’、‘安定した-不安定な’、‘変化のある-統一性のある’などであった(表-5)。

5. 2. 2 抽出した因子と4漢字対との相関分析

各対象物に対する4漢字対の評定平均値と因子分析から抽出された3因子の因子得点との相関分析を行った結果、3因子と4漢字対とは高い有意水準の相関関係を示した。第1因子は〈華-寂〉の漢字対と高い相関関係にあり、第2因子は〈厳-笑〉、〈剛-柔〉の漢字対と高い相関関係にあり、第3因子は〈整-雑〉の漢字対と高い相関関係を示した(表-6)。この結果から、日本と韓国の被験者による両国の対象物に対するイメージは、4漢字対の〈華-寂〉、〈厳-笑〉、〈剛-柔〉、〈整-雑〉で説明できると考えられる。

5. 2. 3 抽出因子と4漢字対との回帰分析

日本と韓国の被験者グループ別に、対象物に対する3因子の因子得点を説明変数、4漢字対の評定平均値を目的変数として回帰分析を行った。両被験者グループともに説明力と有意水準の高い回帰式が求められた(表-7)。日本人被験者グループの4漢字対に及ぼす抽出因子の影響の大きさは、次のような順番を示した。

- 〈華-寂〉-第1因子、第2因子、第3因子
- 〈厳-笑〉-第2因子、第3因子、第1因子
- 〈剛-柔〉-第2因子、第3因子、第1因子
- 〈整-雑〉-第3因子、第1因子、第2因子

韓国人被験者グループでは次のような順番を示した。

- 〈華-寂〉-第1因子、第3因子、第2因子
- 〈厳-笑〉-第2因子、第3因子、第1因子
- 〈剛-柔〉-第2因子、第3因子、第1因子
- 〈整-雑〉-第3因子、第1因子、第2因子

両グループともに〈華-寂〉の漢字対には第1因子の影響が強く、〈厳-笑〉、〈剛-柔〉の漢字対には第2因子の影響が強く、〈整-雑〉の漢字対には第3因子の影響が強いことが判明し、日本と韓国の被験者グループの3因子による4漢字対のイメージの認知構造は、ほとんど同様のパターンをもっていると考えられる。

5. 2. 4 4漢字対によるクラスター分析

最終的に、対象物に対する4漢字対のイメージの認知構造が、日本と韓国の両被験者グループでほとんど同様であることを検証するために、両国の被験者グループ別に、対象物に対する4漢字対の評定平均値で、ウォード法によるクラスター分析を行った。両グループともにほとんど同様のイメージの対象物で構成された3つのクラスター(図-3、4)が得られた。C1は‘寂、厳、剛、

表-5 28形容語対の因子負荷量

No	評定尺度 (28形容語対)	因子		
		F1	F2	F3
3	豪華な - 質素な	0.83654	-0.08443	-0.00394
24	装飾的な - 非装飾的な	0.77825	-0.05872	-0.10002
11	複雑な - 単純な	0.67425	-0.14314	-0.33209
18	色彩感のある - 色彩感のない	0.64988	0.15271	0.06630
10	独特な - 平凡な	0.64258	-0.05272	-0.13490
25	明るい - 暗い	0.59494	0.42261	0.05943
6	こまかい - あらい	0.58408	0.01628	-0.05213
15	動的な - 静的な	0.57527	0.19260	-0.48648
27	面白い - つまらない	0.55083	0.27773	0.03383
21	曲線的な - 直線的な	0.15856	0.13054	-0.05629
19	水平的な - 垂直的な	-0.30183	0.24749	0.08805
5	古い - 新しい	-0.48045	-0.19078	0.13519
8	平面的な - 立体的な	-0.48561	0.15912	0.12261
4	落ち着いた - 浮わつた	-0.45649	-0.04860	0.45744
20	自然的な - 人工的な	-0.50140	0.34308	0.16695
13	親しい - よそよそしい	-0.14536	0.59179	0.15348
12	暖かい - 冷たい	0.21750	0.56655	0.12774
9	軽快な - 荘重的な	0.06153	0.55822	-0.17880
7	すがすがしい - うっとうしい	0.16344	0.44128	0.36495
1	開放的な - 閉鎖的な	0.18319	0.34525	-0.08307
16	男性的な - 女性的な	0.13921	-0.33500	0.03514
17	かたい - やわらかい	0.01538	-0.61404	0.06376
2	整然とした - 雑然とした	-0.06695	0.02736	0.63320
28	安定した - 不安定な	-0.13645	0.04076	0.51012
26	すっきりしている - でこでこしている	-0.24607	0.30283	0.55113
22	対称的な - 非対称的な	0.22805	-0.19356	0.51727
23	素材感のある - 素材感のない	-0.14799	0.16899	0.17772
14	変化のある - 統一感のある	0.33691	0.28722	-0.59824
寄与率(%)		48.5	22.4	15.8

表-6 3因子と4漢字対との相関関係

漢字対 \ 因子	B ₁ :華-寂	B ₂ :厳-笑	B ₃ :剛-柔	B ₄ :整-雑
F ₁ :第1因子	0.95*	-0.25	0.17	-0.50
F ₂ :第2因子	-0.09	-0.67*	-0.87*	-0.12
F ₃ :第3因子	-0.32	0.69*	0.39	0.88*

*: p (有意水準) < 0.01

表-7 3因子による4漢字対の回帰式

回帰式(日本人)	R ²	p
B ₁ = 4.06 + 1.50 * F ₁ + 0.52 * F ₂ - 0.09 * F ₃	0.93	0.0001
B ₂ = 3.93 - 0.37 * F ₁ - 0.97 * F ₂ + 0.43 * F ₃	0.63	0.0010
B ₃ = 4.04 + 0.09 * F ₁ - 1.03 * F ₂ + 0.12 * F ₃	0.81	0.0001
B ₄ = 3.59 - 0.45 * F ₁ + 0.17 * F ₂ + 1.16 * F ₃	0.90	0.0001
回帰式(韓国人)	R ²	p
B ₁ = 3.85 + 1.14 * F ₁ - 0.31 * F ₂ - 0.40 * F ₃	0.90	0.0001
B ₂ = 4.08 - 0.09 * F ₁ - 0.78 * F ₂ + 0.78 * F ₃	0.85	0.0001
B ₃ = 3.99 - 0.09 * F ₁ - 0.71 * F ₂ + 0.45 * F ₃	0.68	0.0003
B ₄ = 3.28 - 0.16 * F ₁ + 0.11 * F ₂ + 1.03 * F ₃	0.69	0.0002

B₁:華-寂 B₂:厳-笑 B₃:剛-柔 B₄:整-雑
 F₁:第1因子 F₂:第2因子 F₃:第3因子
 *: p (有意水準) < 0.01 R²:決定係数

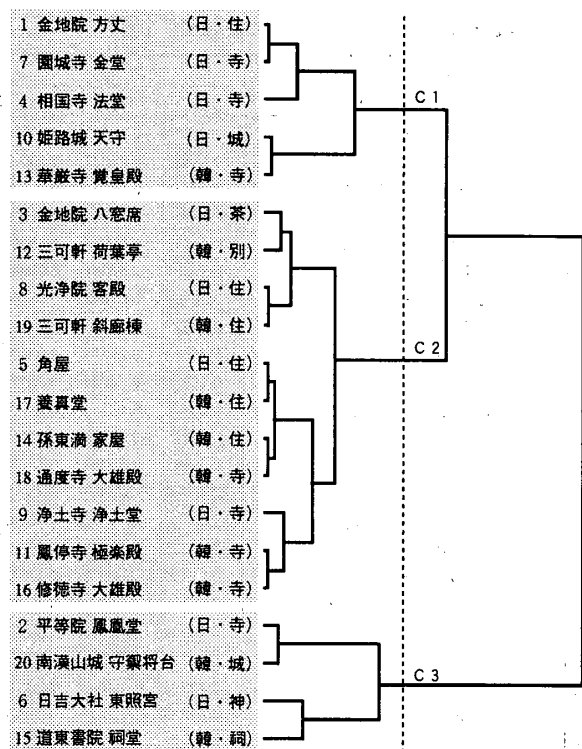


図-3 全対象物のクラスター (日本人)

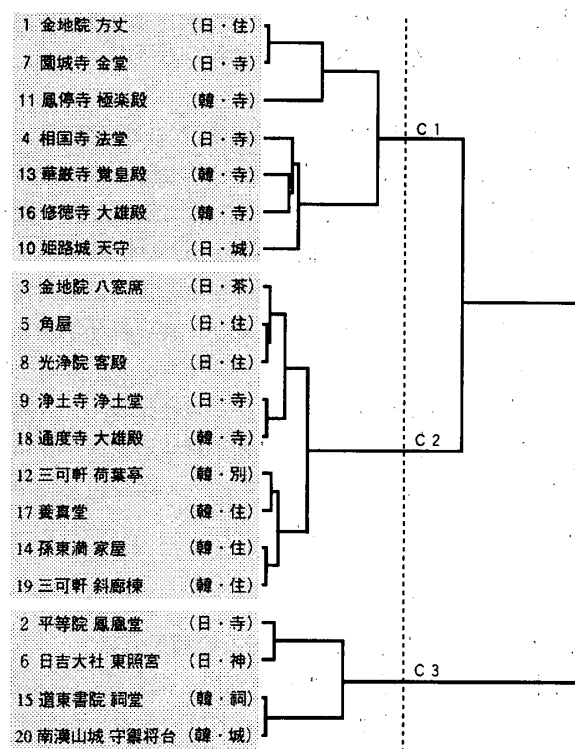


図-4 全対象物のクラスター (韓国人)

整’、C3は‘華、笑、雑’、C2は‘寂、笑、柔、整’でC1とC3の中間的なイメージの対象物の構成を示した。このうち、韓国の対象物の鳳停寺極楽殿と修徳寺大雄殿は日・韓異なるクラスターに所属したが、ともに対象物外壁に黄色が彩色されていることが把握された。本分析から、日本の被験者グループと韓国の被験者グループは、対象物に対する4漢字対の評定においてほとんど同様の評定パターンを示した。一方、日本の被験者グループは、イメージにより彩色の影響が、韓国の被験者グループは形状からの影響が大きく表れた。また、両被験者グループの各クラスターの結び方の考察から、4漢字対の中の〈華-寂〉と〈整-雑〉対、〈嚴-笑〉と〈剛-柔〉対は密接な関係を示した。

6. 結

日・韓伝統建築物各10棟を対象とした心理実験と一連の分析及び考察から、次のことが明らかになった。

- 1) 日本人・韓国人被験者グループは、4漢字対(華-寂、剛-柔、嚴-笑、整-雑)に対してほとんど同様のイメージ認知構造をもつ。
- 2) 日・韓伝統建築物のイメージ評価のための代表評定尺度として4漢字対を用いることが可能である。

次報では、本報で得られた代表評定尺度の4漢字対による対象物のイメージを分析し、そのイメージ想起に強

く影響を与える部位及び要素を抽出する。そしてその相関性を考察することによって、日本・韓国伝統建築のファサードの意匠に関するイメージ特性を明らかにする。

謝 辞

本研究にあたり、韓国の対象物選定に蔚山大学(韓国)の李圭成教授、韓国語の翻訳には当時名古屋大学言語学科博士課程の車美愛氏から御指導及び御鞭撻を頂いた。また、実験に韓国の慶北大学、蔚山大学の工大建築科教官及び日・韓の被験者諸氏からご協力を頂いた。上記して心から感謝の意を表します。

注

- 1) 参考文献6)のp.81の表-1とp.82の表-2。
- 2) 雑:本研究での‘雑’には、主要ではない、純粋ではないとの意味は含まれていない。
- 3) 書院:儒林(儒学者の仲間)達が集まって、名賢または忠節で有名な偉人を崇めて、その徳望と節義を敬うため勉強しお祈りするところで、村の図書館の機能もある。
- 4) 祠堂:先賢を崇めてお祈りする所。
- 5) 別堂:住宅の中で主屋から離れて別に建てられた建物で、居間のあるものをいう。
- 6) たとえば、参考文献2~6、10、13、14)などを示す。

7) たとえば、参考文献22、23)などを示す。

参考文献

- 1) A.ラポポート、山本正三他訳：住まいと文化、(株)大明堂、p.69、1987年
- 2) 奥長直之：日本建築の空間に関する意味論的研究、名古屋工業大学修士論文、1971年度
- 3) 船越 徹、積田 洋：街路空間の研究(その1)、日本建築学会論文報告集、第327号、pp.100-107、1983年5月
- 4) 船越 徹、積田 洋：街路空間の研究(その2)、日本建築学会論文報告集、第364号、pp.102-111、1986年6月
- 5) 船越 徹、積田 洋：街路空間の研究(その3)、日本建築学会論文報告集、第378号、pp.49-57、1987年3月 など
- 6) 岡島達雄、渡辺勝彦、野田勝久、若山 滋、内藤 昌：日本伝統建築における空間特性(その1)、日本建築学会計画系論文報告集、第357号、pp.80-87、1985年11月
- 7) 岡島達雄、渡辺勝彦、野田勝久、若山 滋、内藤 昌：日本伝統建築における空間特性(その2)、日本建築学会計画系論文報告集、第361号、pp.111-121、1986年3月
- 8) 岡島達雄、渡辺勝彦、野田勝久、若山 滋、内藤 昌：日本伝統建築における空間特性(その3)日本建築学会計画系論文報告集、第363号、pp.136-145、1986年5月
- 9) 岡島達雄、渡辺勝彦、野田勝久、若山 滋、内藤 昌：日本伝統建築における空間特性(その4)日本建築学会計画系論文報告集、第367号、pp.98-107、1986年9月
- 10) 岡島達雄、渡辺勝彦、小西啓之、菊池真二、若山 滋、内藤 昌：日本の伝統的町並みにおける空間特性(その1)、日本建築学会計画系論文報告集、第379号、pp.123-128、1987年9月
- 11) 岡島達雄、渡辺勝彦、小西啓之、菊池真二、野田勝久、若山滋、内藤 昌：日本の伝統的町並みにおける空間特性(その2)、日本建築学会計画系論文報告集、第383号、pp.134-140、1988年1月
- 12) 岡島達雄、若山 滋、小西啓之、渡辺達夫、内藤 昌：日本の伝統的街並みにおける空間特性(その3)、日本建築学会計画系論文報告集、第399号、pp.93-101、1989年5月
- 13) 若山 滋、市川健二、岡島達雄、菅 雅幸：建築構法を表現する形容言語の分析、日本建築学会計画系論文報告集、第386号、pp.62-70、1988年4月
- 14) 小林正美、東山純一、川崎 清：京都大学吉田キャンパスの外部空間に対する意識分析、日本建築学会計画系論文報告集、第378号、pp.58-65、1987年8月
- 15) 岡島達雄、金 東永：日本建築の日・韓での空間イメージ比較、日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸)、pp.1327-1328、1992年8月
- 16) 岡島達雄、金 東永：日本・韓国伝統建築のイメージ研究、日本建築学会東海支部研究報告集、pp.677-680、1993年2月
- 17) 岡島達雄、金 東永：日本・韓国伝統建築のイメージ特性—その1.代表評定尺度の抽出、日本建築学会大会学術講演梗概集(関東)、pp.1137-1138、1993年9月
- 18) 岩下豊彦：S.D.法によるイメージの測定、川島書店、1983年
- 19) SASソフトウェア株式会社：SAS User's Guide: Basic Version 5Edition [日本語版]、1986年
- 20) 鄭 寅国：韓国建築様式論、一志社、1974年
- 21) 金 奉熱、西垣安比古訳：韓国の建築—伝統建築編、学芸出版社、1991年
- 22) 井上充夫：日本建築の空間、鹿島出版社、1969年
- 23) 崔 淳雨：韓国の風雅、成甲書房、1981年

(1993年7月10日原稿受理、1994年2月4日採用決定)